

化学製品安全データシート[SDS]

スプレーガンクリーナー

作成日 : 2023年8月10日

改定日 :

1. 製品及び会社情報

【製品名】

製品名 : スプレーガンクリーナー
管理番号 : スプレーガンクリーナー/ 2023.08.10
製品分類 : 塗料・インキ・接着剤の洗浄/剥離液

【会社情報】

社名 : 株式会社オルタライフ
住所 : 埼玉県戸田市笹目 8 丁目 15-1
電話番号: 048-449-6570 FAX番号: 048-421-3266

2. 危険性有害性の要約

【GHS 分類】

重篤な眼の損傷/眼の刺激 区分 2A

【GHS ラベル要素】

絵表示又はシンボル :



注意喚起語

警告

危険有害性情報:

H319 - 強い眼刺激

注意書き (安全対策・応急措置・保管・廃棄)

P264 - 取扱後は手、腕、顔をよく洗うこと

P280 - 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/聴覚保護を着用すること

P301+P312 - 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること

P302+P312 - 皮膚に付着した場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること

P304+P340 - 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること

P305+P351+P338 - 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること

P312 - 気分が悪い時は医師に連絡すること

P330 - 口をすすぐこと

P337+P313 - 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当を受けること

P370+P378 - 火災の場合: 通常消火器を使用して、消火すること

P403+P233+P235 - 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておく、涼しいところに置くこと

P501 - 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って、廃棄すること

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物 (全ての原材料は ICSC 検索記載なし、PRTR 法管理対象外)

成分名称(化学名)	含有量 (W%)	CAS No. 官報公示整理番号
植物由来アルコール系溶剤 Plant-based Organic Composite Solvent	90～ 91%	非開示 (2)-217
水分 Water	8～9%	7732-18-5 (9)-447x
植物由来非イオン系界面活性剤 (ラウリルグルコシド) Plant-based Non-ionic Surfactant (Lauryl Glucoside)	<0.5%	非開示 (5)-3641
植物由来非イオン系界面活性剤 Plant-based Nonionic Surfactant	<0.3%	非開示 (7)-97

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
症状が続く場合には、医師の診断、手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚への刺激や不快感が生じた場合、液が付着した部位を大量の水で洗うこと。症状が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- 目に入った場合 : 水で最低 15 分以上注意深く洗う事こと。
次にコンタクトレンズを容易に外せる場合は外し洗浄を続ける。
症状が続く場合には、医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 無理にはき出させず、口の中をうがいし大量の水を飲む。
気分が悪い場合には、医師の診断や手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 不必要
- 使ってはならない消火剤 : データなし
- 特有の危険有害性 : データなし
- 特有の消火方法 : データなし
- 消火を行う者の保護 : データなし

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
- 環境に対する注意事項 : 特になし。少量の時は大量の水で洗い流す。
- 封じ込め及び浄化方法・器材 : データなし

7. 取扱及び保管上の注意

・取り扱い

- 技術的対策 : 「8. ばく露防止及び保護措置」記載なき場合は、特に必要ない。
- 局所排気・全体換気 : 特に必要ない。

安全取扱注意事項 : 特に必要ない。

•保管

技術的対策 : 特に必要ない。

混触危険物質 : 特に必要ない。

保管条件 : 冷暗所に密閉して保管すること。
加熱されたり、直射日光が当たらない場所に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

•管理濃度・作業環境管理基準 : 未設定

•許容濃度

日本産衛学会 : 未設定

ACGIH : 未設定

•設備対策 : 特に必要ない。

•保護具

呼吸器用保護具 : 蒸気が発生する場合、必要に応じて保護マスクを着用する。

手の保護具 : 保護手袋を着用する。

眼の保護具 : 保護メガネやゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣、保護エプロンを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

状態 : 液体
色 : 透明から黄色透明
pH値 : 10±0.5 (20℃)
におい : 特徴的な臭い
引火点 : 無し
沸点 : 140℃以上
融点 : -20℃以下
揮発性 : なし @20℃
密度 : 1.05g/cm³ ±0.01 (20℃)
動粘度 : 8.0±0.5mm²/s (20℃)
粘度(計算値) : 0.0084pa・s(上記、密度と動粘度より算出)
溶解度 : 水に溶解性

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性 : 通常の手扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性 : 通常の手扱い条件下では危険有害反応は起こさない。
避けるべき条件 : 使用時以外は、直射日光、他の物質と接触させない。
混触危険物質 : データなし
危険有害な分解生成物 : データなし

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	:LD50値: 3,129mg/k	マウスを用いた試験法による。
急性毒性(経皮)	:LD50値: 5,000mg/kg 以上	マウスを用いた試験法による。
目に対する重篤な損傷性 又は目刺激性	:	ウサギを用いた目刺激性試験で 刺激性作用が認められた。
皮膚感作性	:	55名の被験者によるヒトパッチ 試験において感作性は認められ なかった。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	:区分に該当しない
水生環境慢性有害性	:区分に該当しない
生分解性	:生分解性を持つ(容易に微生物分解される) 98.9% (JIS K 3363)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	:廃棄においては、関連法規制並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、又は地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
汚染容器／包装	:容器は水等で洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

14. 輸送上の注意

・国際規制

海上輸送	: 非該当
航空輸送	: 非該当
国連(UN)番号	: 非該当

・国内規制

陸上規制情報	: 非該当
海上規制情報	: 非該当
航空規制情報	: 非該当

・特別安全対策

: 非該当

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR) : 非該当

・労働安全衛生法

危険物	: 非該当
有機溶剤中毒予防規則	: 非該当
表示対象物質	: 非該当
第57条の2通知対象物	: 非該当

・毒物及び劇物取締法 : 非該当

・消防法 : 非該当

16. その他の情報: 参考文献

- 1) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 「化学物質総合情報提供システム(CHRIP)」
<http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>
「化審法データベース(J-CHECK)」
<http://www.safe.nite.go.jp/jcheck/Top.do>
- 2) 安全衛生情報センター 「GHS対応モデルMSDS情報」
http://www.jaish.gr.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx
- 3) 総務省行政管理局 電子政府利用支援センター 「法令データ提供システム」
<http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>
- 4) 国立医薬品食品衛生研究所(NIHS) 安全情報部 「国際化学物質安全性カード日本語版」
<http://www.nihs.go.jp/ICSC/>
- 5) 財団法人化学物質評価研究機構 「化学物質ハザードデータ集」
http://www.cerij.or.jp/db/sheet/sheet_indx.htm
- 6) 経済産業省・環境省「PRTR 排出量等算出マニュアル第4 版」資料編(対象物質に関連する情報)
<http://www.env.go.jp/chemi/prtr/notification/calc.html>
- 7) 厚生労働省 労働基準情報 「化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)」
附属書2、4 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei07/index.html>
- 8) UNECE “Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS)”
http://www.unece.org/trans/danger/publi/ghs/ghs_rev02/02files_e.html

当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。

当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で製品運搬・開封から廃棄に至るまで安全を優先して、使用者の自己責任においてご使用下さい。

当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの法規制などについては使用者自ら調査し最優先させて下さい。

国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。

当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしにかかわらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。